

鎌倉武士の識字能力(literacy)は低い

平重衡の1180年南都焼打ち(東大寺・興福寺)

	院政期文化 (貴族層が民衆文化を受容, 独自の地方文化が発展)	鎌倉文化 (公武二元文化, 禅宗文化の影響)	南北朝文化
建築	<p>[阿弥陀堂] (阿弥陀堂建築の地方普及)</p> <p>中尊寺金色堂 (陸奥国平泉に藤原清衡が建立)</p> <p>富貴寺大尊 (豊後国(大分県))</p> <p>白水阿弥陀堂 (陸奥国(福島県))</p> <p>三仏寺投入堂 (伯耆国(鳥取県))</p>	<p>東大寺南大門 = 大仏様 (天竺様)</p> <p>★重源(俊乗坊)の指導・陳和剛(宋の工人)の協力</p> <p>円覚寺舍利殿 = 禅宗様 (唐様)</p> <p>蓮華王院本堂 = 和様 (日本風建築)</p> <p>観心寺金堂 = 折衷様 (新和様)</p>	<p>「康派(奈良仏師)の彫刻(鎌倉文化)」</p> <p>東大寺南大門金剛力士像 (運慶・快慶ら)</p> <p>東大寺僧形八幡神像 (快慶)</p> <p>興福寺無著像・世親像 (運慶ら)</p> <p>興福寺天灯鬼像・竜灯鬼像 (康弁ら)</p> <p>六波羅蜜寺空也上人像 (康勝)</p>
絵画	<p>[装飾経] (経典に特別な装飾をほどこしたもの)</p> <p>『扇面古写経』 (大和絵の上に経文を墨書)</p> <p>『平家納経』 (平清盛が厳島神社に奉納)</p> <p>★厳島神社参詣のために菅原頼戸(安芸国)を開削</p> <p>[絵巻物] (絵画と文書を交互に記したもの)</p> <p>『源氏物語絵巻』 (『源氏物語』が題材)</p> <p>★藤原隆能が引目鉤鼻・吹抜屋台の手法で描く</p> <p>『伴大納言絵巻』 (応天門の変(866)が題材)</p> <p>『鳥獣戯画』 (動物を擬人化して世相を風刺)</p> <p>『信貴山縁起絵巻』 (僧命蓮に関する奇跡談)</p>	<p>[似絵] (写実的な大和絵の肖像画)</p> <p>藤原隆信(父)『源頼朝像・平重盛像』</p> <p>藤原信実(子)『後鳥羽上皇像』</p> <p>[頂相] (禅宗で師から与えられる師の肖像画)</p> <p>[絵巻物] (絵画と文書を交互に記したもの)</p> <p>『北野天神縁起絵巻』 (菅原道真の生涯を描く)</p> <p>『春日権現験記』 (建築現場の様子を描く)</p> <p>『一遍上人絵伝』 (備前国福園市の様子)</p> <p>『蒙古襲来絵巻』 (肥後の御家人竹崎季長)</p> <p>『男衾三郎絵巻』 (武蔵国の武士の生活)</p>	<p>[水墨画] (禅の精神を墨の濃淡で描く)</p> <p>黙庵『布袋図』</p> <p>可翁『寒山図』</p> <p>「工芸(鎌倉文化)」</p> <p>① 刀工 = 粟田口吉光 (京都) 今日ではアワ 長船長光 (備前) ビでオッサ 岡崎正宗 (鎌倉) ン構おうか)</p> <p>② 甲冑 = 明珍 (京都の甲冑製作の名家)</p> <p>③ 陶器 = 加藤藤正 (尾張の瀬戸焼の祖?)</p>
文学	<p>[軍記物語]</p> <p>『将門記』 (平将門の乱が題材)</p> <p>『陸奥話記』 (前九年の役が題材)</p> <p>[歴史物語]</p> <p>『栄花(華)物語』 (道長の栄華を賛美し記述)</p> <p>★赤染衛門 (女流歌人) の作といわれる</p> <p>『大鏡』 (道長の栄華を批判的に記述)</p> <p>[説話文学]</p> <p>『今昔物語集』 (源隆国が著したとされる?)</p> <p>本朝・天竺・震旦の3国から成る仏教説話集</p>	<p>[軍記物語]</p> <p>『平家物語』 (琵琶法師の平曲で庶民に流行)</p> <p>『源平盛衰記』 (平家物語を増補したもの)</p> <p>[歴史書・歴史物語]</p> <p>『吾妻鏡』 (鎌倉幕府の記録を編年体で記述)</p> <p>『愚管抄』 (徳川(天台座主)の道理による歴史書)</p> <p>『今鏡』 → 『水鏡』</p> <p>[説話文学] (庶民用に平易な文章)</p> <p>『古今著聞集』 (橘成季が著した古今の説話集)</p> <p>『沙石集』 (無住が著した庶民的な仏教説話集)</p> <p>[私設図書館]</p> <p>金沢文庫 (北条実時が設立した私設図書館)</p> <p>好学の武士も</p>	<p>[軍記物語]</p> <p>『太平記』 (南北朝の動乱が題材)</p> <p>★南朝に同情的な記述が多い</p> <p>[歴史書・歴史物語]</p> <p>『神皇正統記』 (南朝の正統性) 北畠親房</p> <p>『梅松論』 (北朝の正統性)</p> <p>『増鏡』 (公家の立場から記述した歴史物語)</p> <p>「日記・随筆(鎌倉文化)」</p> <p>『玉葉』 (九条兼実(摂政・関白)の日記)</p> <p>『十六夜日記』 (阿尼尼の京都〜鎌倉の日記)</p> <p>『方丈記』 (鴨長明の随筆) = 鎌倉前期</p> <p>『徒然草』 (吉田兼好の随筆) = 鎌倉後期</p>
詩歌	<p>(八代集の編纂)</p> <p>武家政権の隆盛 = 公家政権が後退</p> <p>(1) 和歌を重視して公家の教養を強調</p> <p>(2) 昔を懐かしむようになる(懐古主義)</p> <p>→ 有職故実 (朝廷の儀式などを研究)</p>	<p>[勅撰和歌集]</p> <p>『新古今和歌集』 (八代集の最後)</p> <p>後鳥羽上皇の命で藤原定家・家隆らが編纂</p> <p>[私撰和歌集]</p> <p>『金槐和歌集』 (源実朝)</p> <p>『山家集』 (西行) もと北面の武士</p>	<p>[連歌] (上の句と下の句を交互に読み合わせる)</p> <p>二条良基</p> <p>『菟玖波集』 (最初の連歌集→準勅撰となる)</p> <p>『応安新式』 (連歌の規則書)</p>
学問	<p>[有職書] (朝廷の儀式・年中行事などを記す)</p> <p>源高明『西宮記』 (国風文化)</p> <p>藤原公任『北山抄』 (国風文化)</p> <p>大江匡房『江家次第』 (院政期文化)</p>	<p>[有職故実] (朝廷の儀式や年中行事を研究)</p> <p>順徳天皇『禁秘抄』</p> <p>[古典研究]</p> <p>卜部兼方『釈日本紀』 (日本書紀の注釈書)</p>	<p>[有職故実] (朝廷の儀式や年中行事を研究)</p> <p>後醍醐天皇『建武年中行事』</p> <p>北畠親房『職原抄』 (1340)</p>
芸能	<p>散楽 (奈良時代に伝わる)</p> <p>→ 猿楽 (滑稽を主とした雑芸) → 芸として専門的に演じる者が登場 → 猿楽能 (大和猿楽四座 = 観世座(もと結崎座)・金春座・宝生座・金剛座)</p> <p>→ 田楽 (田植祭りの際の歌舞) → 演劇(能)としての仕組みを整える → 田楽能 (田楽の要素を取り入れる)</p>	<p>[茶道(茶の湯)]</p> <p>抹茶の伝来 (栄西が宋から伝える)</p> <p>ex. 『喫茶養生記』 (源実朝に献上)</p>	<p>[茶道(茶の湯)]</p> <p>茶寄合 (多人数で開かれた娯楽的な茶会)</p> <p>闘茶 (茶の種類や産地を飲みあてる競技)</p>
能	<p>[今様] (貴族も愛好した現代歌謡)</p> <p>[催馬楽] (貴族も愛好した古代歌謡)</p> <p>後白河法皇『梁塵秘抄』 (歌謡を集成)</p>		

[F] 院政期文化②



〔源氏物語絵巻〕



〔鳥獣戯画〕



〔信貴山縁起絵巻〕

[G] 鎌倉文化



〔東大寺南大門〕



〔円覚寺舍利殿〕



〔東大寺南大門金剛力士像〕



〔興福寺天灯鬼・竜灯鬼〕



〔六波羅蜜寺空也上人像〕



〔蓮華王院本堂〕



〔観心寺金堂〕



〔踊念仏〕



〔一遍上人絵伝〕



〔北野天神縁起絵巻〕



〔春日権現験記〕



〔蒙古襲来絵詞〕



〔男衾三郎絵巻〕



〔(伝)源頼朝像〕

[H] 室町文化



〔鹿苑寺金閣〕



〔慈照寺銀閣〕



〔慈照寺東求堂同仁齋〕



〔龍安寺石庭〕



〔瓢鮎図〕



〔四季山水図巻(山水長巻)〕



〔秋冬山水図〕



〔大仙院花鳥図〕



〔田楽〕



〔能の興行風景〕

[I] 桃山文化



〔姫路城〕



〔唐獅子図屏風〕



〔智積院襖絵〕



〔南蛮屏風〕



〔阿国歌舞伎〕



〔天草版平家物語〕